



患者さんからのご質問にお答えします

? PET検査で注射するおくすりは造影剤ですか？
副作用はありますか？



答え

**使用する薬（ ^{18}F -FDG）は
造影剤ではありません。副作用もないです。**

使用する薬（ ^{18}F -FDG）は、目印として微量の放射線を出す成分（ ^{18}F ）がひっついたブドウ糖の類似体です。
この薬が身体のどこに集まったか撮影するのがPET検査です。
使用する薬（ ^{18}F -FDG）そのものが原因となる副作用はありません。

< ^{18}F -FDGとCTの造影剤との違い>

	^{18}F -FDG	CTの造影剤
機序	ブドウ糖代謝の高い所に集まる (薬剤投与が必要)	組織成分に応じて画像にコントラストをつける (薬剤投与はオプション)
副作用	なし (腎機能の悪い人も可)	起こりうる (腎機能悪い人は不可) ※喘息や副作用歴のある人は注意が必要
投与量	数cc	100cc前後
特徴	薬剤から一定量の放射線が出る	薬剤から放射線は出ない
使用期限	短い ※数時間	他の薬品同様に一定の期限有り

血管に針をさすことによる
気分不快が起こる場合があります。

*採血など針を刺す検査全てにいえることです

薬剤投与した後の患者さんからは放射線が出ています。
周りの患者さんや病院スタッフへの被ばくを減らすため、採血や尿検、エコー検査などはPET検査の前に済ませる方が望ましいです。
薬から出る放射線は時間と共に減っていきませんが、胎児や小さい子どもは大人に比べ放射線の影響を受けやすいため、妊婦や小さい子どもと関わる方は検査後4-5時間程度は密な関わりをお控え下さい。

FDGは尿から排泄されるので、体内の放射線をより早く減らすにはいつもより多めの水分摂取を心がけてもらうと良いです

PETの薬は使用期限が極端に短く、作り置きや買い置きができないため、検査当日の予約時刻に合わせて準備しています。
予約時刻より遅れて来院された場合は、検査できないことがあります。時刻厳守をお願いします。

